

COMPANY BROCHURE

2026 SHADO Co., Ltd.
<https://www.shado-inc.co.jp>

株式会社 SHADO

SHADO

Copyright(C) SHADO Co., Ltd. All rights reserved.

CONTENTS



01

COMPANY OVERVIEW
会社概要

02

GROUP COMPANY
グループ会社

03

OUR SERVICE
提供サービス

04

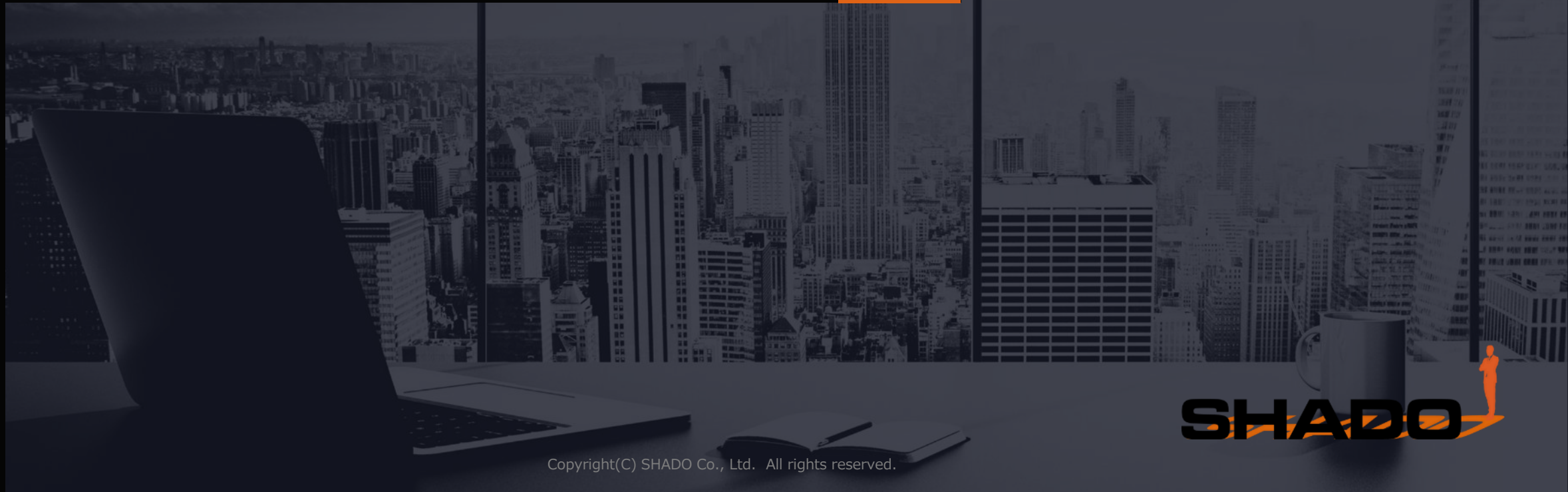
CASE
事例紹介

05

CSR
SHADOの出展・協賛

COMPANY OVERVIEW

- 会社概要



SHADO

株式会社SHADO

所在地 本 社 : 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-11
ヒューリック御茶ノ水ビル3F
TEL 03-5244-4792

旭川BASE : 〒070-0031 北海道旭川市1条通8丁目542-4
一条緑橋通ビル2F

大阪BASE : 〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町3丁目5-13
創建御堂筋ビル2F 203号室

宮崎BASE : 〒880-0001 宮崎県宮崎市橘通西3丁目10番32号
宮崎ナナイロ東館8階 ATOMica内

沖縄BASE : 〒901-0305 沖縄県糸満市西崎6丁目16-16
友寄ビル3F

設立日 2021年8月18日

決算月 8月

資本金 100万円

役 員 代表取締役社長 岡田 篤彦

従業員数 53名(2026年4月時点)

事業内容 ソフトウェア第三者検証
品質コンサルティング
システム構築プロセス改善
システム開発
WEB制作・UX/UIデザイン
組織・人材コンサルティング
広告マーケティング
EC開発・運用サポート
(攻商人・宿守・蔵楽販売代理店)

取引銀行 みずほ銀行 神田支店
城南信用金庫 九段支店
住信SBIネット銀行 法人第一支店

関連会社 株式会社GENZ
株式会社ONE WEDGE
株式会社ポルト
株式会社VAMPUP
株式会社優利グループ
株式会社CATION
株式会社ひとまち
株式会社グリーンウォーターズ

株式会社SHADO

GENZ
ONE WEDGE
SHADO
VAMP UP
PORUTO
CATION
YURI GROUP

TEST FIRST
test Fondly test Sweetly
test Lovingly test Softly
test Gently

IT engineer dis
Syst em integrat
SES promotion t
management Ind

認定資格適格 請求書発行事業者登録番号 T2011101096098

ISMS認証取得 ISO/IEC27001 MSA-IS-334

【認 証 範 囲】

- ・ソフトウェア品質管理支援
- ・営業支援
- ・ソフトウェア開発

適用宣言書：A-07 1.0版(2019年04月15日)

【認 証 組 織】

本 社：東京都千代田区神田駿河台2-3-11
札幌支店：北海道札幌市中央区南1条西5丁目20番地
青森支店：青森県青森市長島2丁目25-3

〈ソフトウェア品質管理支援・営業支援〉

株式会社SHADO 本 社：東京都千代田区神田駿河台2-3-11
株式会社SHADO 旭川BASE：北海道旭川市1条通8丁目542-4
株式会社SHADO 大阪BASE：大阪府大阪市中央区淡路町3丁目5-13

〈ソフトウェア開発〉

株式会社ONE WEDGE：東京都千代田区神田駿河台2-3-11
株式会社CATION：東京都千代田区神田駿河台2-3-11

【規 格】 JIS Q 27001:2014(ISO/IEC27001:2013)

【認 証 番 号】 MSA-IS-334

【初 回 認 証 日】 2019年7月29日

【改 訂 日】 2023年6月28日

【再 認 証 日】 2025年6月26日

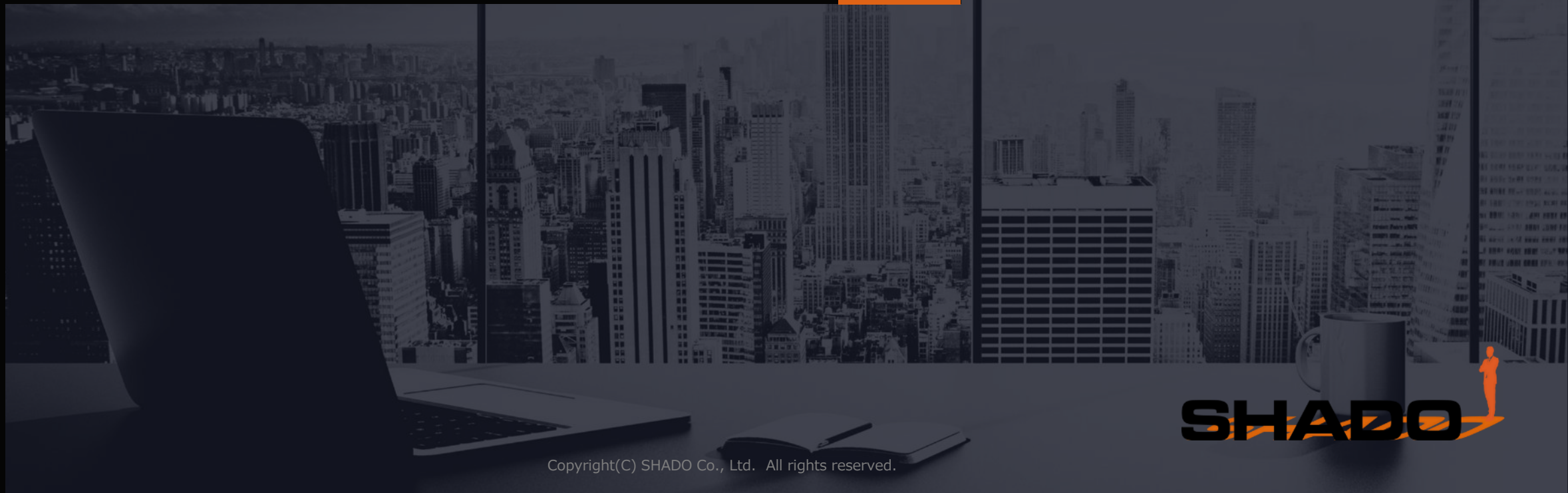
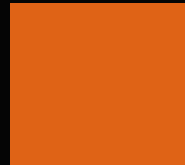
【有 効 期 限】 2028年7月28日

【審査登録機関】 株式会社マネジメントシステム評価センター



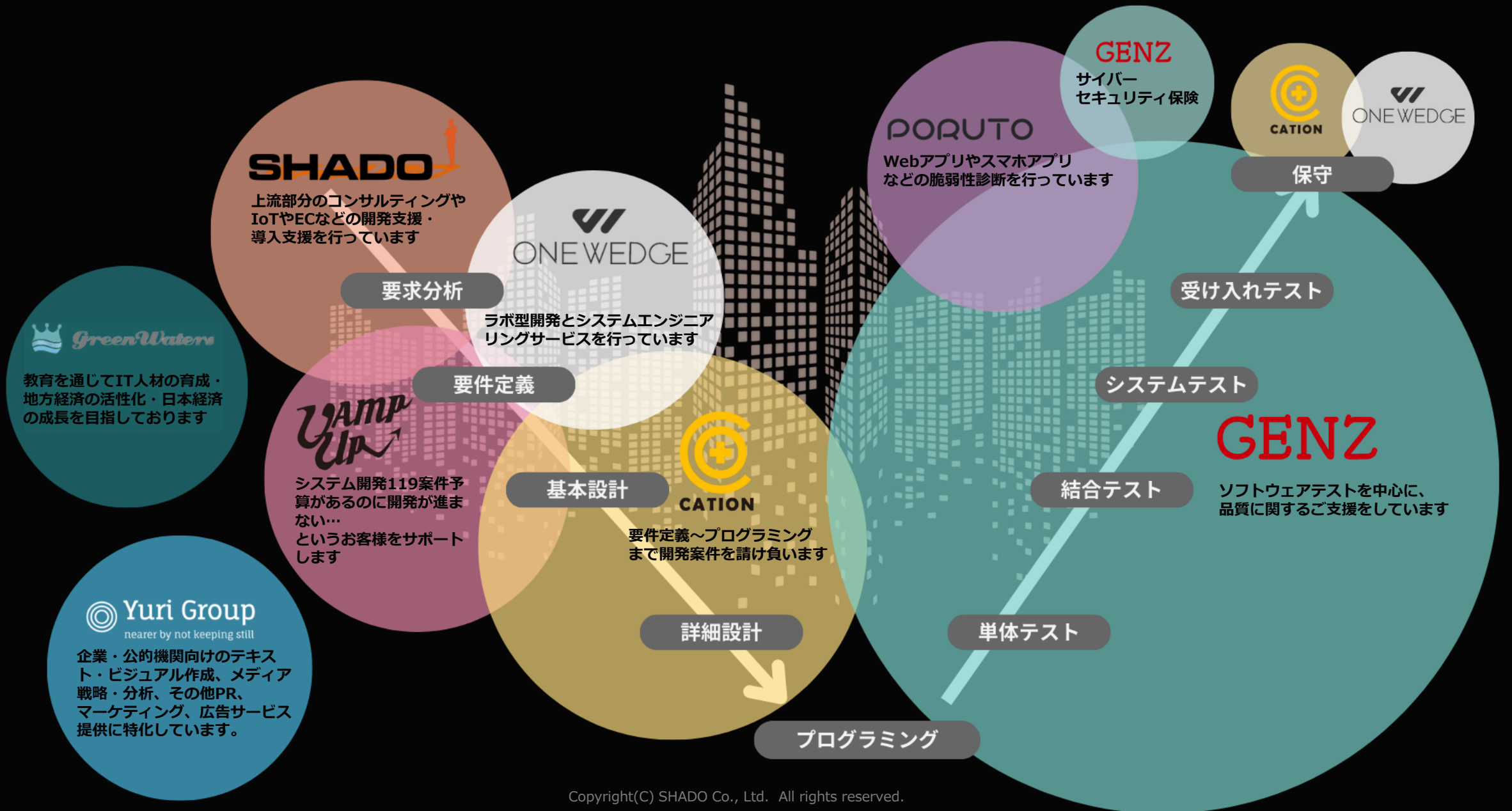
GROUP COMPANY

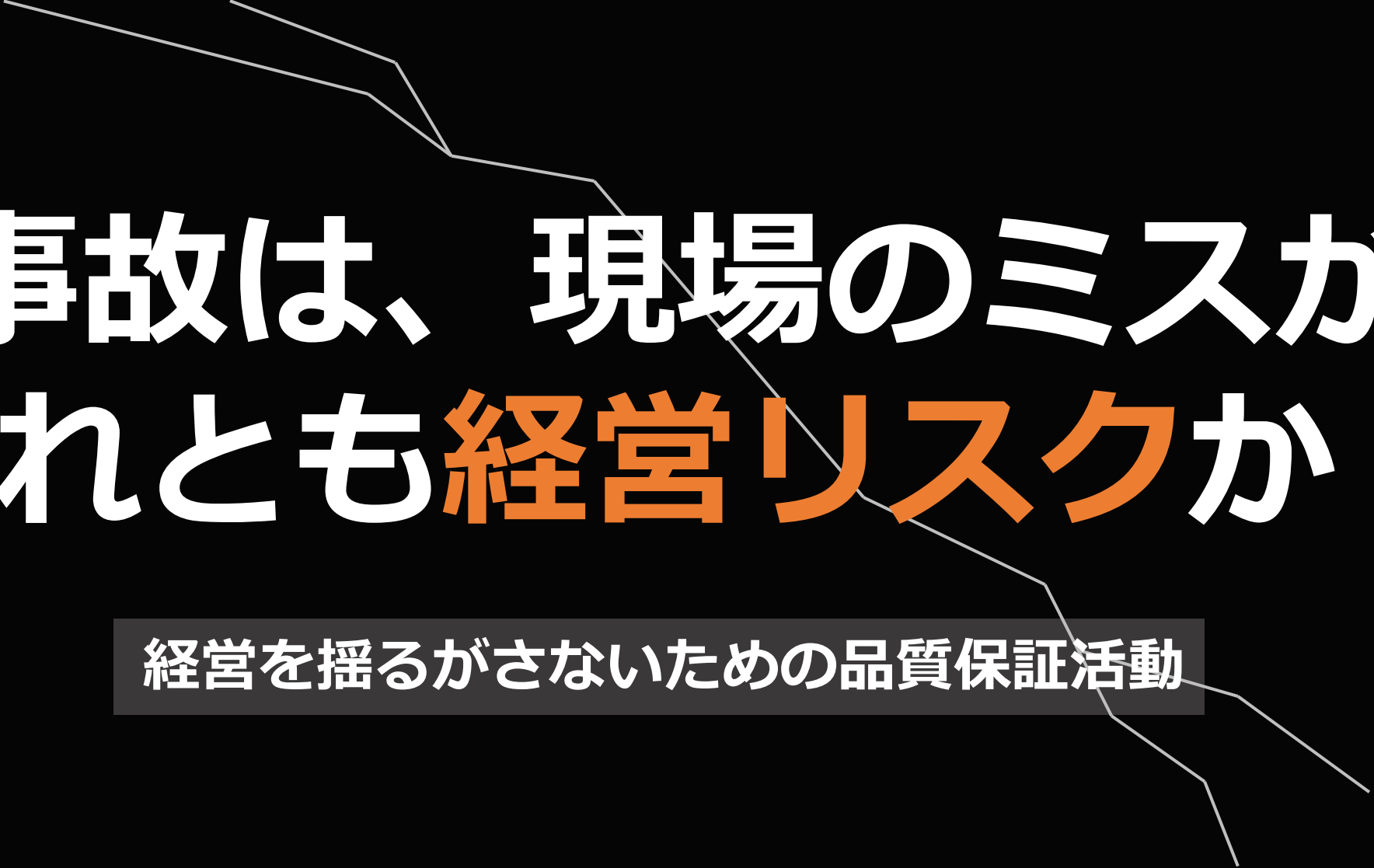
- グループ会社



SHADO

グループ全体でIT関連総合商社構造

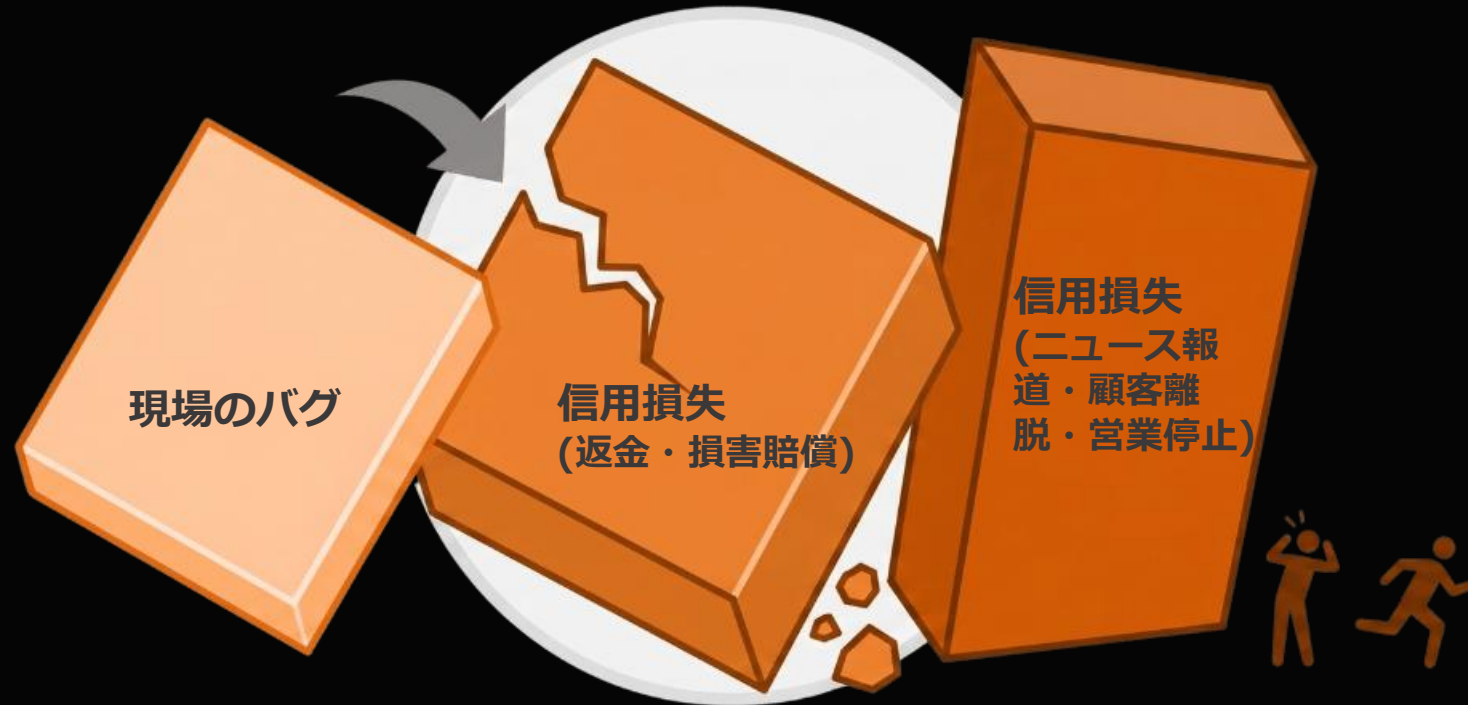




IT事故は、現場のミスか？ それとも**経営リスク**か？

経営を揺るがさないための品質保証活動

品質事故がもたらす「負の連鎖」



現場の視点

「品質＝バグが少ない(技術の問題)」



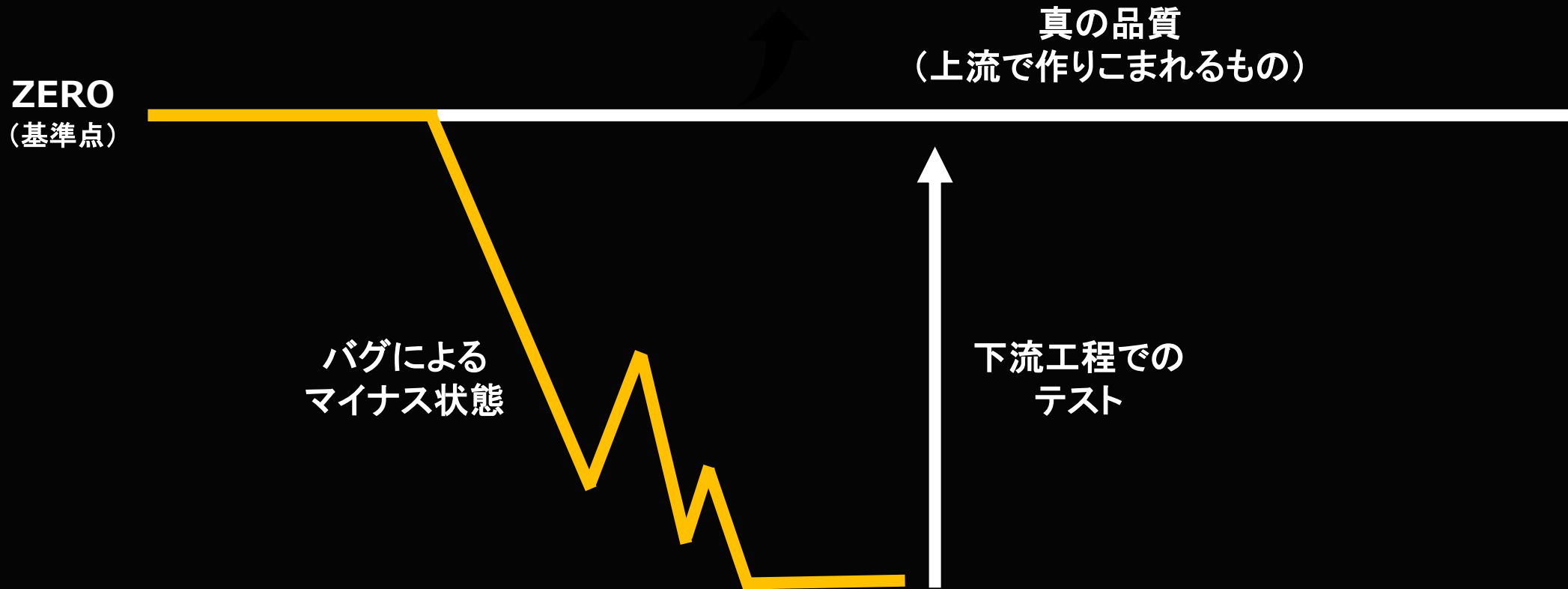
経営の視点

「品質＝事故確率×事故コスト(経営リスク)」

認識のズレがプロジェクトを崩壊させ、経営リスクにまで発展します。

シフトライト戦略の限界

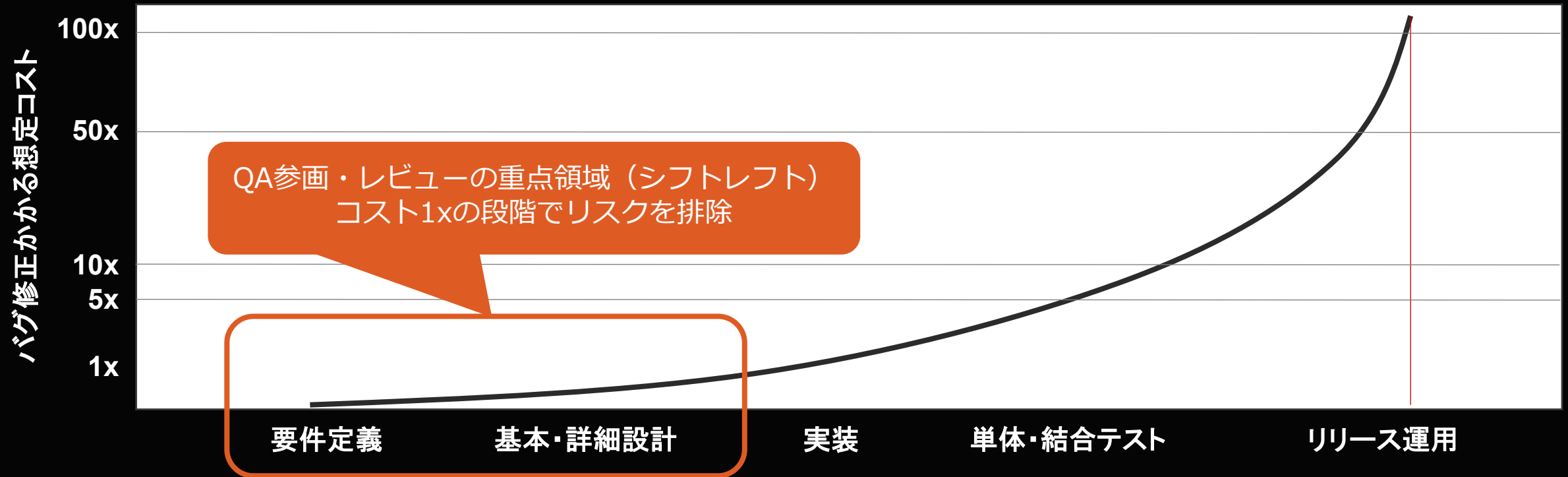
- 下流工程でのテストは品質を上げるのではなく、あくまでもマイナスを「ゼロ」に戻す営みです。



テスト実施は、マイナスをZEROに戻すだけ。品質確認の向上には限界があります。

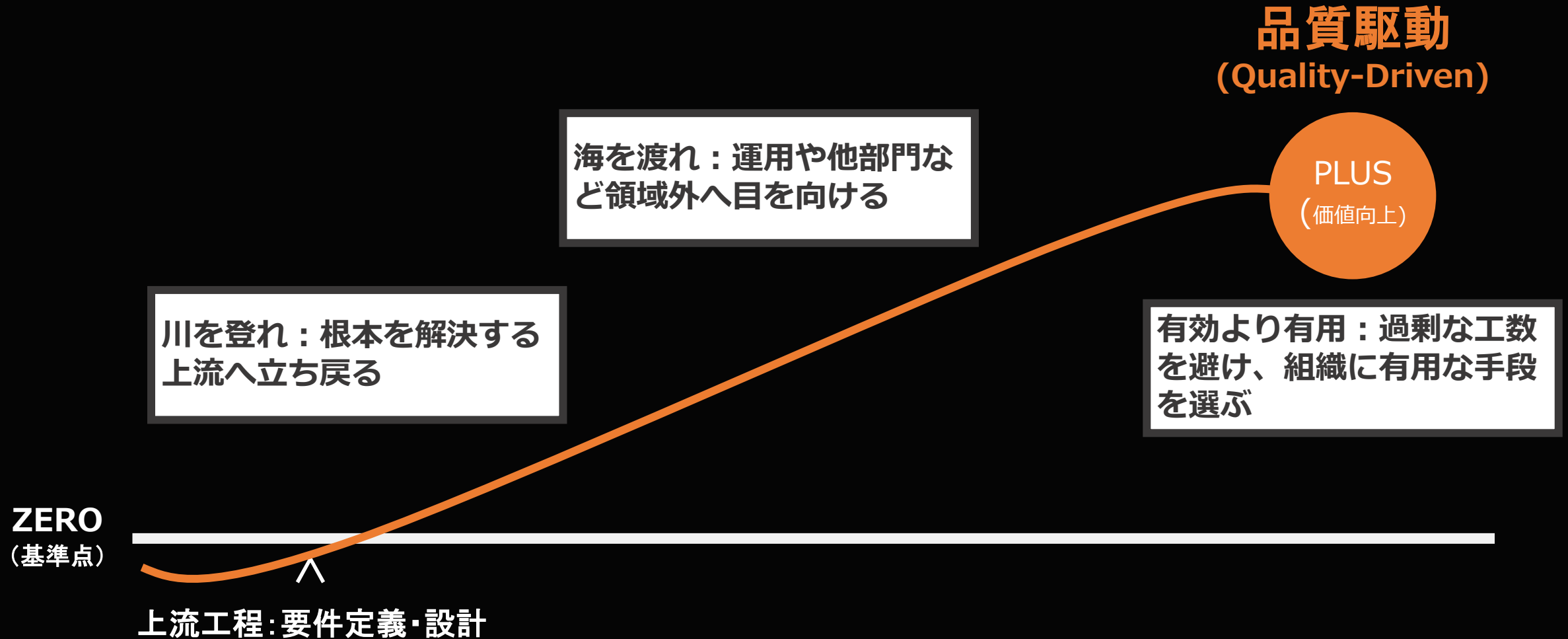
シフトレフト戦略の有用性

バグの修正コストは後工程になるほど指数関数的に増大します。仕様の曖昧さや設計不備を上流工程で早期に潰す「シフトレフト戦略」が有効な手段です。



上流工程での品質の作りこみが、最もROIの高いコスト最適化施策です。

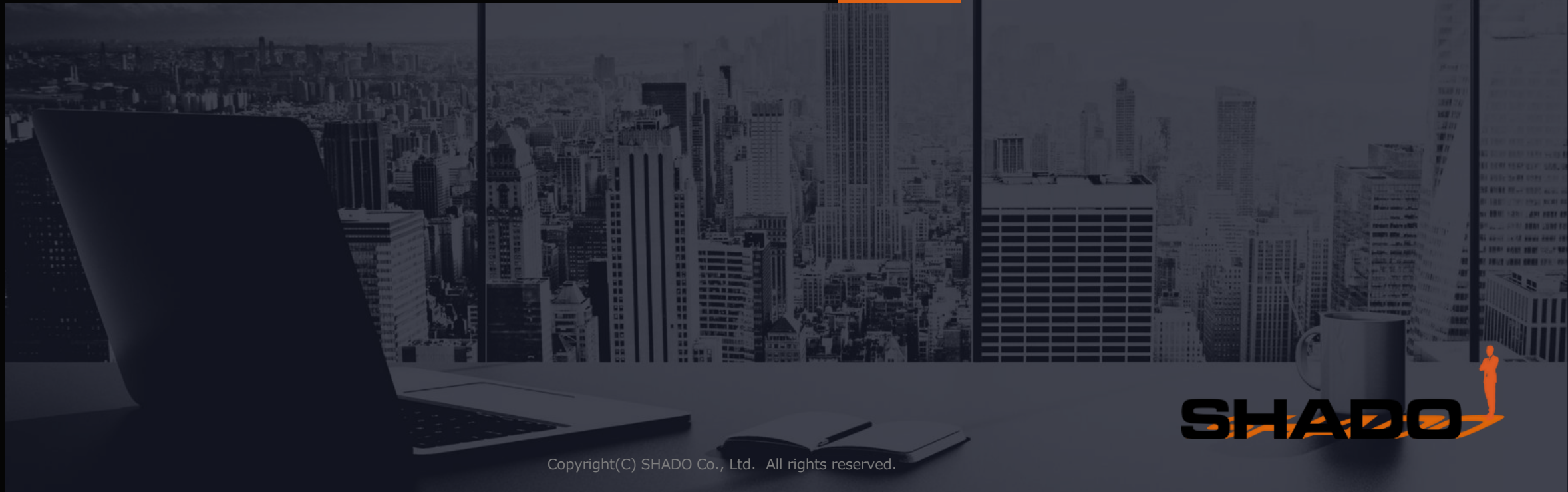
マイナスを、ZEROからプラスへ転じる「品質駆動」



品質駆動により、ZEROからプラスへ転じさせます。

OUR SERVICE

- 提供サービス



SHADO

SHADOが提供するサービス



品質駆動型コンサルタント

【業務の見える化】 現状の業務フローを作成し、課題と改善ポイントを明確にします。

【上流工程診断】 計画書や各種設計書を診断し、プロジェクトの危険度を早期に可視化します。

【品質プロセス改善】 QA組織の立ち上げや仕組みの改善により、重要業務の品質を最適化します。



第三者検証

【全体最適】 結合テストから運用テスト（ITa～ST、OT）まで、設計と実施の両面を一気通貫で最適化します。

【高品質な設計】 プロの視点から、実用性を重視した「有用なテスト観点」で設計を行います。

【低コストな実施】 ニアショアや大量機材の活用、管理の巻き取りにより、効率化とコスト削減を実現します。



省エネ法・温対法に基づく定期報告書作成簡易化サービス

【エネルギー管理システム「repoE」】 省エネ法の定期報告を最適化し、エネルギーやCO2排出量を一元管理します。

【省エネ・省CO2コンサルティング】 法人・拠点ごとのエネルギー現況を可視化し、最適な改善案を提示します。

【データ入力・レポート作成代行】 面倒な入力やレポート作成業務を請け負い、社内の実務負担を最小化します。



SES（人材提供）サービス

【柔軟なリソース提供】 必要なスキルを持つエンジニアを、プロジェクトの規模や期間に合わせて迅速にアサインします。

SHADOが提供するサービス

- 品質プロセス全体、並びに上流と下流にフォーカスし、技術と伴走の力で重要業務の品質を最適化する伴走型支援を行います。

品質駆動コンサルティングサービス

第三者検証サービス

● 品質プロセス改善サービス

● 業務の見える化支援サービス

要求分析

要件定義

基本設計

詳細設計

● 上流工程ドキュメント 診断サービス

受入テスト

システムテスト

結合テスト

単体テスト

プログラミング

- テスト設計・実施最適化サービス
- 品質保証（QA）支援サービス

CASE

- 事例紹介



SHADO

AS-IS見える化サービス

【現状可視化】 業務目詰まりの真因特定

A社（特殊機器開発・メンテ）現状調査



高額なシステムコストを支払いながら「業務が目詰まりしている」という経営層の懸念を契機に、営業部門（担当30人、事務5人）を対象に3ヶ月間のヒアリングを実施し、AS-ISを可視化。その結果、以下のような課題を発見。



業務の重複が多発：

各営業・事務担当者間で、同じデータの転記など、非効率な重複プロセスの存在。



Salesforceの無理な改修：

本来の設計思想に合わない機能を追加したことで、逆に操作性が悪化し非効率に。



不要な高スペックSaaS：

活用しきれていない高機能な個別連携用SaaS（5製品）とExcelファイルが散乱。



シャドーITと紙の放置：

把握されていなかったローカルNASの存在、および実は一部で「紙運用」が継続。

【最適化】全体コスト50%削減と業務改革

COST REDUCTION

50%

無駄なアドオン・個別SaaS、Excelを全廃。
業務整理をベースとしたシステム統合により、
全体の運用コストを従来の半分に削減。

Salesforceアカウント数

10アカウント → 1アカウント

Salesforceアドオン

アドオンを全て廃止

連携用Excelファイル

10ファイル → 0（完全に廃止）

個別導入のSaaSサービス

5サービス → 2
（Google/Kintone代替）

隠れたIT・インフラの整理

NASをGoogleDriveへ移行 / 紙運用はKintoneにてデジタル化

▶▶ **本質的な成功要因** ◀◀

「Kintoneというツールが魔法の解決策だったのではありません。業務プロセスを整理・再設計した結果として、Kintoneでも無理なく、少ない作り込みで実現できるレベルにまで業務がシンプルに削ぎ落とされたことこそが、本改革の最大の成果です。」

上流工程ドキュメント診断サービス

【構造的課題の特定】

B社（専用検査機器開発・販売） 上流ドキュメント診断



B社では、専用検査機器内の組み込みアプリに関わる要件定義までを内製し、設計以降を外部の開発ベンダーに委託。しかし、以下のような構造的課題が常態化していた。

- 納品されるアプリに毎回多くの認識齟齬、仕様の抜け漏れ、考慮不足が発生。
- 手戻りによる開発の遅延と、不具合修正コストの増大。
- ドキュメント品質における根本的な問題の所在が不透明。



対象部署： ソフトウェア開発部（4名）
診断期間： 1週間（コンサルタント2名）
診断対象： 要件定義書、ソフトウェア要求仕様書



SHADOによる上流診断アプローチ：

独自の100項目のチェックリストを活用し、コンサルタント2名が客観的かつ徹底的な品質診断を実施。単なるテキストレビューではなく、経営リスクに直結するドキュメント体系の不備を可視化。

- 要件定義書と要求仕様書の「役割と境界」を徹底分析。
- 開発ベンダーが迷う、または誤解を生む記述の徹底洗い出し。
- 品質保証・検収・保守観点（トレーサビリティ等）での評価。

【診断結果と改善の方向性】



診断の結果、ドキュメントの記載粒度不足に加え、品質保証・検収・保守観点のスコア（1.17点/5点）に重大な欠陥を発見。手戻りを防ぐための3つの改善を推奨。

診断対象

現状の課題

改善の方向性

①ドキュメント体系

要件定義書と要求仕様書の境界が不明瞭で、重複がある一方、必要な情報が不足。要求から仕様へのトレーサビリティが未確保。

「要求」と「要件（要求+仕様）」の役割を明確に分離し、重複を排除。各要求事項がどの仕様に対応するかの関連付け（トレーサビリティ）を徹底。

② 要件定義書

「要求」としては適正だが、「要件」としては仕様の記載内容・粒度が不足。既存機能の羅列が多く、追加仕様との関係が不透明。

本ドキュメントを「要求定義書」として再定義し、目的・全体像提示に特化。機能追加時は、新規要求が既存のどこに影響するかを明示。

③ ソフトウェア 要求仕様書

仕様の記載内容・粒度が不十分。システム管理者用画面の制限、初期値、アラート仕様など、ベンダーが実装を迷う曖昧な表現。

仕様記載を詳細化。「誰が何の操作をして何を得るか」をテスト用に整理。ライセンス資産・OSSルールや、新旧比較検証手法を明確化。

▶▶ 最大の危機と発見 ◀◀

「要求 ⇔ 仕様 ⇔ テスト」の紐付けルールがなく、ヌケモレを検知できない構造になっていた。また、受入基準（Acceptance Criteria）が「仕様を満たすこと」という曖昧な表現になっており、ベンダーの検収判断を迷わせる要因を特定。

QAプロセス構築支援サービス

【ベテラン依存(属人化)の脱却と、上流での品質作り込み】

C社（特定業務特化型SaaS開発・運営）QAプロセス構築支援



C社では、特定業務特化型 SaaSの開発・運営を内製していたが、現在の2台経営リスクを鑑み、「品質は上流で作り込むもの」という考えのもと、実効性のある仕組み＝QAプロセスの構築を検討していた。



解決すべき2大経営リスク：

- ナレッジの属人化：ベテランエンジニアの「個人の知見」のみで品質が担保されており、退職・異動が事業停止を招く構造的リスク。
- プロセスの断片化：開発とテストが断片化しており、不具合の検知が最下流に集中。手戻りコストの急増、リリース遅延、現場の疲弊が常態化。



SHADOの提案「QDD（品質駆動開発）」：

テストを単なる「事後のバグ検査」から「事前の品質保証プロセス」へと再設計するQDDモデルを提案。

- 開発ライフサイクル全体に品質ゲートと標準指標を適用。
- 「最後の砦」であるテスト部門を、CTO/CIO直轄の独立した【QA部門】へと変革し、責任と役割を明確化。

【SHADOが提案した「3つの変革ピラー」】



弊社は以下の3本柱によるご提案を実施。

ガバナンス設計

組織の牽制と融合。PM、開発、QAの責任範囲を再定義し、曖昧さを排除した連携フローを構築します。

- ① 役割分担を曖昧にしないため、責任・役割を徹底的に明確化。これにより組織を分断せず、対等なパートナーシップを築きます。

予防型アプローチ

要件定義からQAが介入。バグ修正コストが肥大化する前に、設計段階で不備を徹底的に叩き出します。

- ② バグの修正コストは後工程になるほど指数関数的に増大するため、要件定義・設計の段階から品質保証（QA）が介入し、上流で手戻りリスクを徹底的に排除します。

検証の高度化

標準化された基準に基づく品質確認。自動化技術を活用し、反復作業を排除して検証精度を極限まで高めます。

- ③ テストをただ単に「実施する」のではなく、標準化された基準に沿って品質確認の精度を極限まで引き上げ、テクノロジーを活用した効率化を推進します。

【プロジェクトの決断：理論より「実効性」】



「直近3か月の要件定義書診断・ヒアリングによる課題抽出」

大枠のQDD構想に合意した上で、C様は「まずはスモールスタートで確実に成果を出したい」と決断。3～4か月のフェーズに区切って都度計画を調整するアプローチを開始。

1ヶ月目：診断・可視化

要件定義書の客観診断

SHADOの独自チェックリスト（100項目）を適用し、現在運用されている設計書の品質レベルと「地雷リスク」を可視化。RCA（根本原因分析）に着手します。

2ヶ月目：実態調査

開発部署ヒアリング

ソフトウェア開発部のベテランを含む関係者へ徹底的にヒアリング。プロセスが断片化している要因と、属人化のボトルネックを現場目線で洗い出します。

3ヶ月目：ロードマップ確定

課題整理・方向性の合意

抽出された課題から次フェーズ（パイロット適用やガイド策定）に向けた対処方針を確定。確実なステップアッププランを経営陣へご報告します。

▶▶ 経営陣としての投資メリット ◀◀

最初から大掛かりな全社展開に投資するのではなく、直近は「診断」と「ヒアリング」に集中することで初期コストとリスクを最小化。診断結果から得られるデータに基づいて、次の具体的な投資判断を可能にします。

第三者検証サービス

【仕様書なきマルチベンダー開発における、品質合意と短納期への即応】

事業者向け政府補助金申請サイトの第三者検証



D社様にて政府から開発を委任された、事業者向け補助金申請サイトのテスト（結合・総合テスト）を担当。複数の開発ベンダーが参画し、複数のポータルサイトが同時並行で進行するマルチベンダー体制下において、以下課題が発生していた。



マルチベンダーによる進捗阻害と納期：

各開発ベンダー間の連携がうまくいかず、開発の遅延ややり直しが発生。それによりスケジュールが後ろ倒しになり、納期までの期間が圧迫されていた。



工数圧迫によるドキュメントの不足：

開発工数に手を取られ、開発ベンダーにての基本設計書や詳細設計書の作成がままならい状況下。



SHADOのアプローチ：

- 自社汎用観点をを用いた「逆引き型」テスト設計
- BTSとQA票を軸にしたコミュニケーション最適化

【品質・スピード・協調を両立する3大ピラー】



「仕様書が『ない』、納期が『短い』極めて厳しいなか、弊社は以下の対応を実施。

動的リソース ・稼働管理

極めて短い検証期間（タイトスケジュール）に対し、人員配置と時間配分をシビアに最適化。急な仕様変更や開発遅延を現場レベルで即時吸収し、全体の納期に一切の狂いを出さない強固な稼働管理を実証。

ナレッジ駆動による 観点抽出

ドキュメントが完全に不在な中で、実画面からのリバースエンジニアリングと自社蓄積の汎用テスト観点チェックリストを融合。正解のないシステムに確かな「検証基準」を能動的に定義。

コミュニケーション ハブ機能

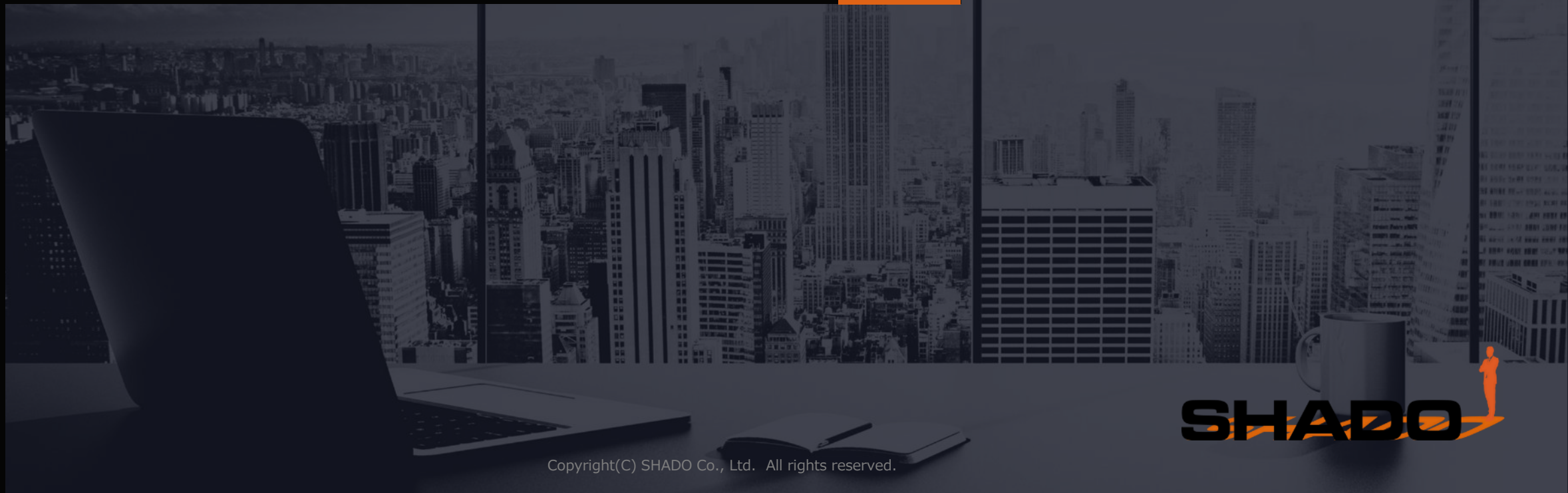
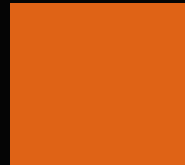
レスポンスの遅い開発元に対し、Redmine上に共通のQA起票プロセスと優先ステータスを設定。疑問点や仕様矛盾の不透明化を防ぎ、複数社間をスムーズに繋ぐ品質ハブとして主体的に機能。

▶ ▶ 本質的な成功要因 ◀ ◀

このプロジェクトが破綻することなくリリースできたのは、単に指示されたテストを消化したからではありません。SHADOが蓄積する品質観点をベースに自律的に仕様の隙間を埋め、開発ベンダーと顧客の間で不具合改修のハブを泥臭く務め上げた、『主体的な品質駆動へのコミット力』こそが、真の成功要因です。

CSR

- SHADOの出展・協賛



SHADO

出展・協賛

弊社では、以下の企業様・イベントに協賛しております

- ・ TORNADO 2023
- ・ ヴォレアス北海道 2023-24 V.LEAGUE
- ・ U-16旭川プログラミングコンテスト
- ・ U-16プログラミングコンテスト北海道大会
- ・ 映画「7WAYS」
- ・ 舞台「あこのありが豆腐」
- ・ 旭川レク・ボッチャ選手権大会
- ・ 怪獣プロレス



旭川レク・ボッチャ選手権大会に掲載した広告



第三者検証による 検証プロセス評価サービス

プロジェクトの検証プロセスを客観的に評価し、その妥当性を判断するために第三者による検証を試してみませんか？

検証プロセス評価サービスのメリット

- 客観的かつ機密性の高い評価が可能
ソフトウェア開発プロセスの改善モデルとアセスメント手帳であるCMMIがベース
- 検証プロセス全体の成熟度評価が可能
- 計画・管理・実行の各プロセスへの定量的な評価が可能
- 各プロセスを構成するアクティビティの組み・組みの見える化が可能
コミュニケーション計画などのこれまでは定量化が難しかったアクティビティも定量的に評価できる
- 改善活動後の効果測定が可能
タスクレベルでの詳細な定量化により、改善前・後の比較がしやすい

検証プロセス評価の流れ

画像解析で 業務革命

画像解析システムSHADOとは
SHADOは、画像処理とマシンディテクションを応用した新しいIoTを構築。IoT導入への壁をなくし、業務への不具合・不備を解消し効率化のサポートを行っています。

SHADO導入で見込める効果

- 検査作業の効率化
カメラに搭載されたカメラとソフトウェアにより、検査作業の効率化を実現。
- 検査作業の自動化
人間の代わりにカメラとソフトウェアにより、検査作業の自動化を実現。
- 検査作業の高精度化
人間の目よりも高精度なカメラとソフトウェアにより、検査作業の高精度化を実現。
- 検査作業の省力化
人間の代わりにカメラとソフトウェアにより、検査作業の省力化を実現。

マシンディテクション運用例

攻商人 KOUSHOUNIN

販売管理システム「攻商人」は、必要な機能をコンパクトにまとめたパッケージシステムです。充実した柔軟機能の中から必要な機能をご利用いただけます。ご要望により、カスタマイズも承ります。

攻商人機能構成

攻商人機能

- 1.受注管理 (Order management)
- 2.在庫管理 (Inventory management)
- 3.仕入管理 (Procurement management)
- 4.売上管理 (Sales management)
- 5.入金管理 (Revenue management)
- 6.入金先管理 (Revenue source management)
- 7.入金 (Revenue)
- 8.仕入先 (Supplier)
- 9.仕入 (Procurement)
- 10.仕入先 (Supplier)
- 11.仕入 (Procurement)
- 12.仕入先 (Supplier)
- 13.仕入 (Procurement)
- 14.仕入先 (Supplier)
- 15.仕入 (Procurement)
- 16.仕入先 (Supplier)
- 17.仕入 (Procurement)
- 18.仕入先 (Supplier)
- 19.仕入 (Procurement)
- 20.仕入先 (Supplier)
- 21.仕入 (Procurement)
- 22.仕入先 (Supplier)
- 23.仕入 (Procurement)
- 24.仕入先 (Supplier)
- 25.仕入 (Procurement)
- 26.仕入先 (Supplier)
- 27.仕入 (Procurement)
- 28.仕入先 (Supplier)
- 29.仕入 (Procurement)
- 30.仕入先 (Supplier)
- 31.仕入 (Procurement)
- 32.仕入先 (Supplier)
- 33.仕入 (Procurement)
- 34.仕入先 (Supplier)
- 35.仕入 (Procurement)
- 36.仕入先 (Supplier)
- 37.仕入 (Procurement)
- 38.仕入先 (Supplier)
- 39.仕入 (Procurement)
- 40.仕入先 (Supplier)
- 41.仕入 (Procurement)
- 42.仕入先 (Supplier)
- 43.仕入 (Procurement)
- 44.仕入先 (Supplier)
- 45.仕入 (Procurement)
- 46.仕入先 (Supplier)
- 47.仕入 (Procurement)
- 48.仕入先 (Supplier)
- 49.仕入 (Procurement)
- 50.仕入先 (Supplier)

user acceptance testing

お客様の受入テストが終わらず
検収が上がらなくてお困りではないですか？

お客様に受入テストを依頼したが終わらない

検収を上げられない、リリースできない

誰に相談したらいい？

そのお悩みプロが解決します

※弊社がベンダ様に代わり直接お客様をサポートいたします。

弊社の受入テストはここが安心

アクセス集中で、今夜も 眠れない。。。。

人気アーティストのチケット
販売でアクセス
1時間10万PV！

集中アクセスに耐えられず
サイトがダウン

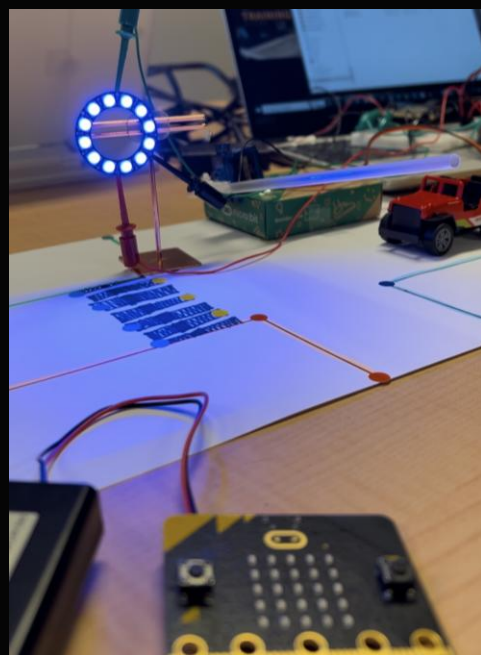
対応に追われてませんか？

そのお悩みプロが解決します

性能テスト(負荷テスト)の目的

システムの処理能力(スループット)に着目し、一定の時間当たりどれくらいの処理ができるのか
また、ピーク時の処理量など数値的指標を確認するテストです

負荷テストの基本的な流れ



個性は
チカラになる

ひとまち アカデミー

HITOMACHI
ACADEMY

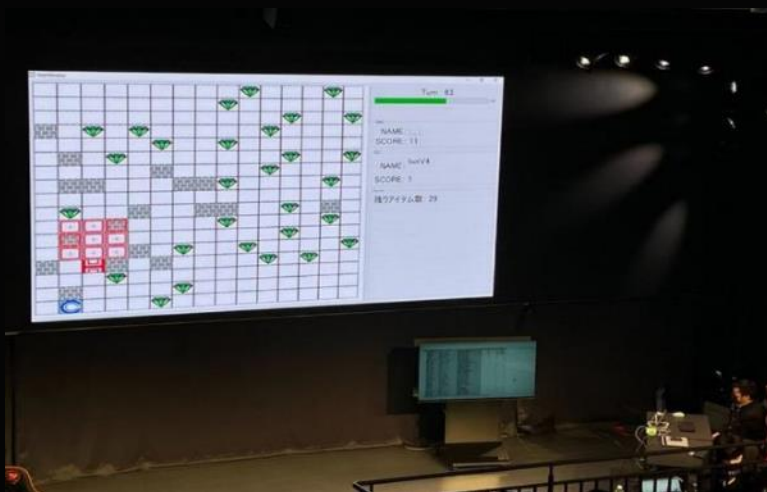
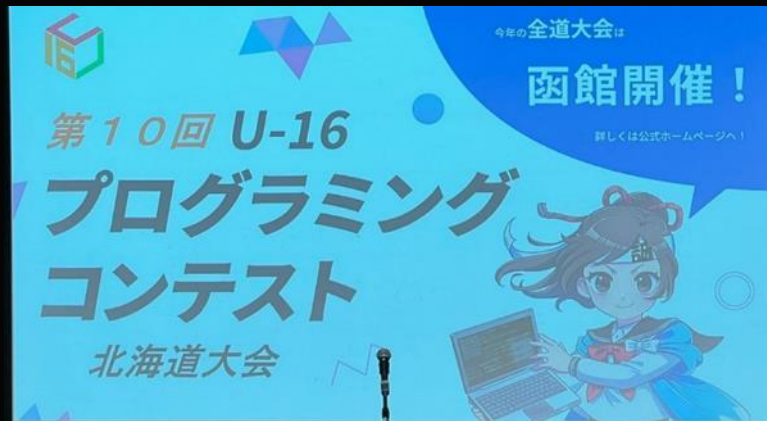


旭川ひとまちアカデミーは
プログラミング学習を中心にした
大人も子供も学べる
コミュニティベースの
新スタイルスクールです。

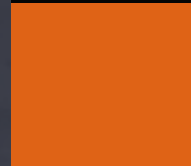
実績ある
講師陣で
ワンランク上を
目指そう!

ひとまち
HITOMACHI

第13回 U-16旭川プログラミングコンテスト 第10回 U-16プログラミングコンテスト北海道大会



Your quality ∞ Our mission



THANK YOU ! !

SHADO